

般若心経和讃

大恩教主釈迦世尊

説かれし経は数知れず

一度念誦する人は

そもそも般若波羅密多は

四十九年の説法に

中に秀れし般若経

御利生受くるぞ有難き

迷いの岸より彼方なる

悟りの岸に渡りゆく

五蘊皆空照見し

我等が短き生涯に

心に感じ身に受けて

その有様を観ずるに

尊き智慧の御経ぞ

一切苦厄を度するとは

苦なり楽なり厄なりと

悲歎の中に日を過す

三毒五欲に執着て

狭せまき心こころで推おしはかり

己おのれ一人ひとりが不幸ふこう者もの

己おのれれ一人ひとりが苦くるしむと

胸むねの内うちにてなげくなり

何なにをか基準さして苦くとなづけ

何なにをかさして楽らくとよぶ

一切いっさい唯ゆい心しん造ぞうなりと

心こころのかまえ一ひとつにて

苦くとも楽らくともなるものを

覺しらずに過すこす人多ひとおほし

これまを覺こと者ことの世界せかいより

心こころ静しずかに眺ながむれば

五ご蘊おんそのまま空くうにして

一切いっさい苦く厄やくさらになし

月つき煌こう々と冴さえ渡わたり

陽ひは耀よう々とかがやきぬ

其その日ひ其その日ひが好よき日ひにて

心こころにかかる雲くももなし

次つぎに説とかるる經みおしえ文は

色しきは即すなわち空くうにして

空は即ち色なりと

深く御教え垂れ給う

我等が日々の生計は

貧しき人や富める人

みめよき人や悪しき人

恋う人好く人憎む人

かかる差別に執着れて

阿修羅の世界に浮き沈む

これ又覺者の眼より

禅定力もてながむれば

たとえ財宝得たりとも

そは必らずや富なるか

汝貴人と呼ばわるも

そは永久に失せざるか

凡そこの世に生れきて

いかなる富貴の人々も 13

百の齡は受け難し

永久に栄ゆる家もなし

森羅万象ことごとく

色は即ち空となる

されど空なる其のものを

うつるの如く思わじな

空と呼ばわる其の中に

春に花あり鳥の声

秋に月あり虫の声

親は子の為罪つくり

子は親の為かくすなり

兄弟共に譲るなり

煩惱と呼ばわるその中に

菩提の影は宿すなり

花の為とて風はあり

月の為とて雲やある

風と雲とがあればこそ

花と月とは尊けれ

差別の浮世の中にいて

差別の言葉に執着れず

盛衰栄枯の中にいて

富貴貧賤論とせず

これぞ色即是空にて

空即是色花ざかり

風かぜ静しずかなる夜よるの空そら

輝かがやく星ほしを眺ながめ見みよ

森羅しんら万象ばんしょうものすべて

真空しんくう妙みょう有うの姿すがたにて

千古せんこ不生しょうふ不滅めつなり

不増ふぞう不滅ふげんとさとるべし 16

さすれば心曇こころくもらす

何物なにものもなし罣礙けいげなし

罣礙けいげなければ恐怖おそれなし

自然おのずと迷まよの雲くもはれて

三昧さんまい無碍むげの空そらひろく

四智しち円明えんみょうの月つき牙さへん

それが故ゆえに心経しんぎょうは

迷まよいの世界せかいに浮沈ふちんする

心こころの無明くらき我等われらをば

さとりの岸ぎしに渡わたすべき 17

般若はん波羅密はらみつ多心経たしんぎょうと

称とえあぐるぞ尊とうけれ